

新聞や雑誌の記事をノートに貼り付けて、スクラップブックを作ったことのある人は多いでしょう。津山藩の洋学者・宇田川榕菴も、そうした張込帳を作っていて、現在、津山洋学資料館に所蔵されています。

この「宇田川榕菴張込帳」は、長さ14mもの和紙を折り畳んで本の形にしている、いろいろな資料が全部で89枚も貼り付けられているのです。

一点一点を詳しく見ていくと、手紙などの日常的なものから、オランダ語の書き付け、植物図、大砲の図まで幅広い分野にわたっています。中にはたくさん方の印影を集めた珍しい資料や「鞘絵」という江戸時代に流行しただし絵、榕菴が尊敬していた古代ギリシャの医師・ヒポクラテスの肖像画もあります。どんなことに榕菴が関心を持っていたのかが伝わってくるようで、眺めていると興味が尽きません。

その中でも目を引くのが、2枚に分けられた大きな樺太の地図です。もともとは1枚だったものを貼り付けられないので2枚に切り分けたのでしょう。左下には文化8年（1811）4月の年記が入っていて、注目されるのは樺太と大陸の間に海峡が描かれていることです。

かつて、樺太は長い間半島だと考えられていました。文化5年（1808）に幕府の命令を受けた間宮林蔵が調査を行い、初めて大陸との間に海峡を発見し、島であることを確認しています。林蔵はこの調査結果を「唐太嶋図」という地図にまとめ、それを基にして松前奉行同心・村上貞助の協力を得ながら、数種類の地図を作成しました。

筆 漫 覧 博 学 洋

～ 宇田川榕菴張込帳 ～

張込帳の樺太図は、実はこの貞助の手によるものであることが研究で明らかになっています。これまでに見つかっているほかのどの地図とも違っており、林蔵の樺太探検によって作られた一連の地図に加わる1枚として、とても貴重な資料なのです。

榕菴がいつ、どうやってこのような貴重な地図を手に入れたのかは分かりません。榕菴も養父の玄真も幕府の蕃書和解御用を務めていて、多くの洋学者と親交があったので、知人から譲り受けたとも考えられます。

張込帳は、榕菴の好奇心とともに、貼り付けられた資料の背景から、他の洋学者たちとの交流を浮かび上がらせているのです。



※透かしの家紋は右が箕作家、左が宇田川家のもの

▲「宇田川榕菴張込帳」の樺太地図〔部分〕（津山洋学資料館所蔵）

10月中のひとの動き

人口	108,826人 (前月比+20)		
男	51,911人 (同+14)		
女	56,915人 (同+6)		
世帯	43,860世帯 (同+23)		
転入	269人	転出	243人
出生	86人	死亡	92人

(11月1日現在)

広報つやまは、環境保護のため再生紙と大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクル(雑誌)にご協力ください



つ・ぶ・や・き

編集室

今年ので愛読に感謝します。来年は皆さんに明るい話題をもっと伝えていきたいです。「若者は未来を語り、老人は過去を語る」と言われますが、年齢にかかわらず、今年の自分を反省し、たうえて、明るい来年を想像(創造)したいですね。(2)

サンタさんの存在を信じているのか、いないのか。これ見よがしに子ども部屋にはり出されるサンタさんへの手紙。しかもお願いするプレゼントがコロコロと変わっていくのだからたまらない…。完全に子どもに遊ばれているかもね。(和)

5月号で紹介した川嶋絢さんが10月に開催された「国際障害者ピアノフェスティバル」へ出場。川嶋さんは「テクニカル賞」に輝きました。取材の時に聞かせてもらったピアノの優しい音色がカナダにも響き渡ったのですね。(S)



12月号



編集・発行 (毎月10日発行)
津山市総合企画部市長公室(市役所3階)
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>

